



日本の生活を足元から見守ってきた畳。い草などを用いて、製造・設置から補修まで、畳に関する仕事を一貫して手掛ける。



ここに技あり!!

同じ大きさでも、部屋の形はそれぞれ違います。畳は少しでも大きさがズレたら設置できない大変デリケートなもの。

そのため、製作をする際には数ミリの誤差も出ないよう細心の注意を払います。最後に配置が完了するまで気が抜けなくても繊細な作業です。

畳は日本固有の床材で、い草で出来ています。その畳の製造と修繕を行うのが畳職人です。

新たに畳を作るだけでなく、畳の芯を再利用して畳表と縁(へり)を張り替える「表替え」や「裏返し」という加工も行います。畳を部屋に隙間なく敷き詰めるため、ミリ単位の誤差も生じないよう、製作の際は緻密な作業が求められます。

昔はすべて手作業で行っていた畳作りも、近年出回っている外国産や新しい素材に対応するため、機械作業を取り入れるなど、技術も変化しています。

基本的な技術や知識を習得し、一通りの作業を覚え、一人前と呼ばれるには最低5年～10年程度の経験が必要とされています。

仕事の魅力

伝統的かつ日本独特の仕事に携われているのは大きな誇り。現場の確認、製作、設置まで一貫して作業を行う責任ある仕事に、やりがいを感じます。良い仕事を適切な値段で提供することを常に心がけています。

● 学ぶ

職業訓練校

● 磨く

技能検定:畳製作技能士1～2級

● 活かす

畳店で経験を積み、独立開業も可能。一般家庭から、寺社や重要文化財などの由緒ある場の仕事を担当することもある。